

第 3 回検討協議会の主な意見のまとめ

○ 施設分類別の再生の方向性について

- ・ 今後、タテ割りを超えた取り組みを推進していくためにも、関係者（所管課、関係団体等の運営主体）や国や都の補助金等について明記できないか。
- ・ 複合化や多機能化、類似機能の集約という手法が多いが、どの施設とどの施設が組み合わせるのか明記されているものとされていないものがある。例えば、児童館は小学校に入るといふ記載があるが、その他の子育て支援施設は小学校という言葉はない。
- ・ 具体的な施設再生を検討していくにあたって、モデル校やモデルケースを設定してはどうか。
- ・ 複合化や多機能化によって学校が 20 年後、30 年後に子どもから老人までが揃って集まって活用できる施設になるとよい。
- ・ ふるさと歴史館や、たいけんの里のような文化施設は稼働率が悪そうなので、運営にもっと力を入れるべきである。プログラムや企画のアドバイザーなどを入れて盛り立て、若い人が楽しめるような施設にしてほしい。
- ・ 文化施設は唯一外貨が獲得できる施設だと思うので、北西部の観光ルートとか東村山市内のサイクリングロードや散策路の整備など、東村山市の観光資源を活かしながらまちづくりと一体化した戦略を検討していくというような内容を追加してほしい。
- ・ 複合化や多機能化を繰り返していくと、最終的にはどの施設も画一的な施設になってしまつて、個性的なものがなくなってしまうので、地域の個性を生かしたような施設展開をしてほしい。

○ 今後の施設運営について

- ・ 指定管理や委託を進めるのであれば、職員や施設運営者の人材育成も重要になってくる。
- ・ ふれあいセンターは、市民協議会が無償ボランティアで実施しているため、他の指定管理者施設と分けて考える必要があるのではないか。
- ・ 施設はハコがあるだけでは動かないのでマンパワーが必要だが、市の職員が全部をやるという形態には戻れない。スペシャリストをいかに育てていくのかということも言及する必要がある。

○ その他の取り組みについて

- ・ 民間に施設整備を行ってもらうことも考えられるが、その場合の土地がどこにあるのかわからない。
- ・ 電子書籍や文書の電子化など、施設の形に影響を与えるソフトの進展も考慮したうえで計画をつくるとよい。
- ・ 東村山市は駅が多いので鉄道事業者といかに連携するかを検討することが重要。高架下の活用だけではなく、駅ナカ保育園や、駅前保育園なども考えられる。